

## 夏期講習會に就て

年々好成績を収めつゝある夏期講習會は、關西に於ける希望者多く、同志を募つて其人名を報告せらるゝ人、近傍名勝の繪葉書を寄せられ開催地を指定せらるゝ人等續々有之、爲めに本年も關西に開かん心組なりしも、出張すべき講師の都合あしく、且昨年關東に於てその催なかりしため、東京附近の開催を望む人尠ならず、依て今回は海に、山に建物に、あらゆる好材料に富める鎌倉の地に開くことに粗ぼ決定致候。會期は八月三日より二週間、講師は大橋正堯、大下藤次郎兩氏を主とし、日本水彩畫會研究所の講師時々來援せらるべく、課目は、墨繪、水彩畫、透視畫法等、滞在費用一日金五十錢内外、詳細の規定は七月の本誌に發表可致候。同地は御承知の通り名勝舊蹟に富み居候間、關西の諸君も此機を利用して御出席ありたく、且要塞區内にして、平生許可なくして寫生し得られざる地なれど夫々手續の上差支なき様致し置可申

候。猶、明年は、九州四國共に出席に都合よき地を選びて開催致し度ものと存居候。追て此講習會出席希望の方は、前以て御申込あらば、會場及宿舍其他の準備上好都合と存候、次に別項廣告の通り、日本水彩畫會長野支部開催の夏期講習會有之候に付、同地方附近の諸君は其方へ御出席有之度候

更に、越後出雲崎有志より夏期講習會開催の申込有之候、會期は八月二十二日より一週間にて次號に詳細規定を示すべく候間全地方有志の出席を希望致候

『みづゑ』第十七、十八、二十二、二十三、二十八、二十九、三十、三十一、四十一、四十二、四十三には青梅、長野、大阪、澁、奈良等に於ける講習會の記事あり、第十七、十八、二十九等は目下品切なれど、他は特に一部金拾錢の割を以て御需に應すべく候

## 問に答ふ

■色彩のことにつき初學者に解し易き書物ありや(三河夕暮)◎『水彩畫階梯』には

其巻尾に色彩のことを説明してあり代價送料共一冊三十四錢本會にて取次すべし。其上詳細に知らんとなれば博文館發行工業叢書中の『色彩學』を見られよ定價は壹圓なりしと覺ゆ■藤島武二氏は洋行中なりや(長谷川利行)◎然り■美學及美術史(西洋)の良參考書及發行所等を知りたし(KY讀者)◎森鷗外氏の審美學に關する著書は東京日本橋春陽堂より、岩村透氏の美術史第一卷は湯島切通坂町畫報社より發行、何れも定價不詳■本年夏休みに出京して親しく御教授を受けたし、夏も日本水彩畫會研究所を開かるゝにや(萩戸生)◎夏期は休課なり、多分鎌倉にて夏期講習會を開く筈につき其方へ御出席ありたし、詳細は來月の『みづゑ』を見られよ■廉價なる鉛筆畫のよき臨本なきや(俊三)◎日本橋通三丁目成美堂書店に小山先生の中學用鉛筆臨本あり定價不明■一 小形の乾製繪具は大凡何程位の價格なりや二 ノーボー式の線の太さは一定すべきものなや(一紅)◎一 大形の半價を通例とす二 一定せずとも可

なり

## 讀者の領分

■夏期講習會開催地希望○東京附近を望む(山田世音、石水生、R、M、A、吉田あき子○青梅若くは八王子邊に願ひたし(飯島生)○毎年關西にては大不平なり、千葉縣下に開かれたし(芳川瀨音)○東海道大磯小田原邊(小田原中學生總代)○丹後宮津希望(神谷雪峰)○高野山がよろしい(四國三郎)○房州海岸に勝地多し(村田生、來島芳松)○九州に開かるゝなら大に盡力す(井上昇)○和歌山縣内希望(南山生)○京都(北村生)○大阪(齋藤清治郎)○静岡に開かれたし(靜陵生、汀舟生) ■一 書架の中古物譲受けたし ■二 紫水生に問ふ携帶箱其他の相當代價を示されたし(脇田生) ■大下先生の『國府津より』と『畫室』は樂しく讀みました、殊に畫室は談話といひ寫眞版と云ひ御膝元に居るやうで誠に嬉しく拜見いたしました(佐藤周子) ■僕の編輯する『水彩鳥會』は繪に關する雜誌に非ず、御入會下さる

人は往復ハガキで申込まれたら見本進呈(紀伴有田郡廣村渡邊氏方長谷川利行) ■廣く諸君の眞面目なる水彩畫の交換を乞ふ、但折目なきを望む、返葉二日以内(大阪市北區蜷橋北詰蜷橋郵便局内齋藤清治郎) ■山口の横道君、筑後の高巢君、和歌の浦の宮崎君、米澤の佐藤君、東京の後藤君、肉筆水彩繪ハガキの御送與を謝す、延引ながら僕のは御受取下さいましたか(紀伊はせがは) ■未知の諸兄姉様肉筆繪ハガキを御恵み下さい、拙畫ながら必ず御返葉いたします(米澤市免許町下一三〇八佐藤周子) ■自筆水彩葉書の交換を願ふ、東京鹽島愛山君御返葉を願ふ(相州鎌倉長谷、堀谷紫海) ■水彩畫油繪並びに風景靜物の水彩繪ハガキ交換希望(福井縣丹生郡吉野小學校内梅田正義) ■『みづゑ』所載の原色版挿繪水彩スケッチ等、初學者のため色彩の説明を希望す(三河、夕暮) ○特に臨本として畫きしものにあられれば説明は難し ■洋畫講義録一號より七號迄希望の方へ安價に譲る、汚目なし(長野市花咲町十一、齋藤龍一) ■女

性と趣味』一冊、織田氏『水彩畫法』一冊、三宅氏『彩畫臨本』八冊、三十六枚、同氏墨繪講話』一冊、同氏『水彩畫集』第二六枚、同氏『水彩畫帖』第一輯一部(一冊及六枚)、同氏水彩畫臺紙付六枚、和田氏『水彩畫法』六枚以上譲渡したし御照會を乞ふ(三河三好、野々山彦太郎) ■前號短評、口繪の『チャンス』は意味深長で氣に入つた、荻原先生の『解剖學』よくわかりました、多謝、大下先生の『靜物寫生の話』あとかドシ／＼願ひたし、榕村主人の色彩の對照』は有益、赤城先生の沼津の海岸』はスケッチとして敬服、大下先生の『白馬會評』これは小生見物せぬ故當否は知らず、同先生の『畫室』は目に見えるやうなり、その寫眞版も結構、其他研究所の方々の『春季寫生會』の記事は讀んでゐて尻が据らぬ、小生も早く東京へ往つて諸君と共に樂しく勉強したい、寄書のうちではR Y生の『日記』が面白かつた、忘評多罪(田舎男) ■繪葉書競技會を再興せられたし(一紅)